**論文指導第1回**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　渠培娥　2016.7.1

**１．文章の種類**

（１）答案・レポート **→**自分が勉強した内容・成果を教師に見せるための文章。

（２）随筆・エッセイ **→**筆の赴くままに書く文章。

（３）評論文  **→**ある問題について、反対であるか、賛成であるか、あるい

　　　　　　　　　　　　　はそのどちらでもないのか、をはっきり示すための文章。（総

　　　　　　　　　　　　　合雑誌などに掲載される文章。ただし、優れた評論文は、か

　　　　　　　　　　　　　ぎりなく論文に近い。）

1. 論文 　　　　　**→**結論だけでなく、結論に到達するプロセスをもはっきりと

　　　　　　　　　　　　　示した文章。

★卒業論文の作成に際しては、

【１】自分の見解をはっきり示すこと、

【２】それを読者に理詰めで説得するために、結論に到達するプロ セスをはっきりと提示すること、

　　　を心がけてください。

**２．論文作成の注意**

（１） 一冊の本や、一篇ないし数篇の論文を要約しただけのものは、論文とはいえません。（それはレポートです。）

（２） 他人の説を無批判に繰り返しただけのものは、論文とはいえません。（それは盗作・です。他人の知的所有権に鈍感な人には論文は書けません。）

（３） 証拠立てられていない私見だけでは、論文とはいえません。（それは評論文です。）

1. **卒業論文作成のための一般的な手順**

Step 1 「テーマ趣意文」の提出→ 卒業論文のテーマを選ぶ 。

　　　　　テーマ趣意文では、

① テーマ

② なぜそのテーマを選ぶのか

③ そのテーマの基本文献

④ 現時点で予想される論文の章立て

を示して下さい。

**テーマ設定について注意事項**

①当該テーマに関する全ての学術情報をリスト化する。特に、文献リストを作成する。

②①で作成した文献・資のような方法論で何にアプローチしたらよいかが次第にわかってくるはずである。ただし、なかなかテーマ設定ができない場合もある。この段階で、担当指導教員からアドバイスをもらうのはとても有効である。

　この段階で最終的にはっきりさせるべきは、卒論のタイトル・サブタイトル、研究の目的、意義、リサーチクエスチョン、対象、方法である。すなわち、なぜ、何をどこまでどのように明らかにしたいのか（自らのオリジナリティーの芽となる）をはっきりさせる。

**はっきりさせるべき点**

・卒論のタイトル・サブタイトル（巨大なテーマ、タイトルにしない。）

※卒論はできあがりで20～30 ページくらいのものである。本を書く必要はないので、巨大な

　　　　テーマを扱わないことが肝要である。

・意義（当該テーマはなぜ重要なのか）

・目的（何を明らかにするのか。仮説やリサーチクエスチョンの形式でよい。）

・対象（何を分析対象とするのか、またいつからいつまでの時代を対象とするのか。分析可能

　　　な範囲に対象を限定する。）

・方法（どのような方法論をもちいるのか。）

Step 2 文献リストの作成→ テーマに関する基本文献に加えて、文献リスト（参考文献リ

　　　　　　　　　　　　　スト、資料リスト作成する

1. どんな文献や資料があるのかについて**自分で調べる**ことが、卒業論文作成の第一

　　　　歩です。

（２） 文献リストは

① 基本文献の脚注を調べること

② 図書館等で調べること

③ インターネットやデータベースを調べること

　　　　　　などによって作成します。

Step 3　　卒論の調査・研究

　　　　　（１）基本文献、参考文献、資料を調査し、（必要に応じてノートなどを取り

　　　　　　　　ながら）読みこなす。

　　　　　（２）問題の焦点を絞り、章別編成の再検討を行なう。

★資料を読みこなせば読みこなすほど、当初立てたテーマが大きすぎたり、章別編成が大雑把過ぎたりして、これらを変更する必要が生じることは少なくありません。章別編成は自由に変更してかまいません。

★テーマの変更は、中間報告前であれば可能ですが、指導教員にご一報下さい。

　　　　　（３） 書けそうな部分から、下書きや図表などを作成してみる。

Step 4　卒業論文の中間報告（必須）→ 指導教官の前で、卒業論文の中間報告を行ない、

　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導を受ける。

　　　　　　　　　　★　11月中旬頃行われる可能性がある。

Step 5　卒論の執筆・仕上げ →中間報告の指導に基づき、構想の再検討、資料の補足的

　　　　　　　　　　　　　　な調査などを行なう

★中間報告会以後のテーマ変更は、原則として認められません。

★基本的な資料の調査は、11月中には終了しておくようにして下さい。11月後半から１月前半にかけて卒論を完成させるように頑張ってください。

Step 6 　卒論の提出と評価→卒論本文、卒業論文要旨などを**期限までに**提出する。

1. **卒業論文の組み立て方（章別編成）**

（１） 論文構成は、序論、本論、結論を区別してください。

（２） 全体は何章で構成されてもかまいませんが、基本的に次の性格付けは頭に入れておいて下さい。

① 序論（家の見取り図） ・・論文の目的、問題の所在、問題意識を示す。

② 本論（家の柱） ・・論証、実証。通常いくつかの章に分かれます。

③ 結論（家の仕上げ） ・・つまりどうであるのか、自分の見解を示す。また、 残された課題を示すことができるのは、よい論文 であると考えられます。

（３） 問題の設定の仕方は、論文の良し悪しに大きな影響を与えます。問題の設定が明確でないと、結論の出ない論文になりかねません。はっきりと絞り込まれた内容をもつ「問題の設定」ができるように心がけて下さい。なお、問題の設定自体に大きな意味がある場合（たとえばこれまで問題にされてこなかったけれども、実はこういう問題が存在するのだ、という斬新な問題提起を行なう場合）などは、序論に当たる「問題の所在」が、論文で大きな比重を占める場合もあります。

（４） 論証の仕方によっては、本論のなかで、すでに結論が示されていることもあります。その場合、結論部分はこれまでの要約や今後の課題の提示となります。

**５．卒業論文作成のための一般的な心構え**

（１） 卒業論文作成は、学部学生にとって、**相手を理性的に説得するための文章**を作成する初めての機会です。相手を理性的に説得するための文章の作成は、卒業後も、企業やさまざまな組織において、しばしば必要とされることになると思います。卒業論文は、その初めての訓練の場であると考えて下さい。

（２） 卒業論文では、専門の研究者と同じような水準が求められるわけではありませんが、作成している文章は、あくまでも論文であり、相手を理性的に説得するための文章であることを意識して作成して下さい。

（３） 卒業論文作成の心構えとしては、他人の文章・業績を引き写して体裁をつくろうよりも、未完成であっても、自分で考え、自分で調べたものが望ましいといえます。不完全であっても、自分のオリジナリティを出すための努力を大切にして下さい。